

2017年3月期 決算説明資料

2017年4月26日
メタウォーター株式会社

- I 2017年3月期ハイライト
- II 2018年3月期経営方針
- III 2017年3月期決算概要

<セグメント情報>

□プラントエンジニアリング事業(略語:PE事業)

当セグメントでは、浄水場内の浄水プロセス、下水処理場内の下水処理プロセス、汚泥処理プロセス、燃料化プロセスに使用する機械設備の設計・建設と、それらを運転、監視、制御するための電気設備の設計・建設を核とした各種エンジニアリングを主たる業務としています。

□サービスソリューション事業(略語:SS事業)

当セグメントでは、浄水場、下水処理場、ごみ処理施設・リサイクル施設向けの機械設備や電気設備の補修工事、運転、維持管理(保守・点検)、運営などの各種サービスを主たる業務としています。

<略語>

EPC Engineering, Procurement and Construction: 設計・建設

O&M Operation and Maintenance: 運転・維持管理

PPP Public-Private Partnership(公民連携): 公共サービスの提供に民間が参画する手法

PFI Private Finance Initiative: 公共施設の設計・建設、運転・維持管理、資金調達に民間を活用する公共事業の手法

DBO Design, Build and Operate: 公共施設などの設計・建設、運転・維持管理に民間を活用する公共事業の手法

- I 2017年3月期ハイライト
- II 2018年3月期経営方針
- III 2017年3月期決算概要

- * 損益
AAS連結を含む北米事業改革効果などにより、売上高、営業利益は、概ね予想どおり増収増益
当期純利益は、米国子会社における税効果の影響により予想を上回る増益
- * 受注高
受注時期の遅れなどにより、予想には届かなかったものの、過去最高を更新
受注残高は増加傾向を継続 (参考)'16/3期末1,072億円→'17/3期末1,152億円
- * 配当
安定配当の方針に基づき、年間58円を継続

(億円)

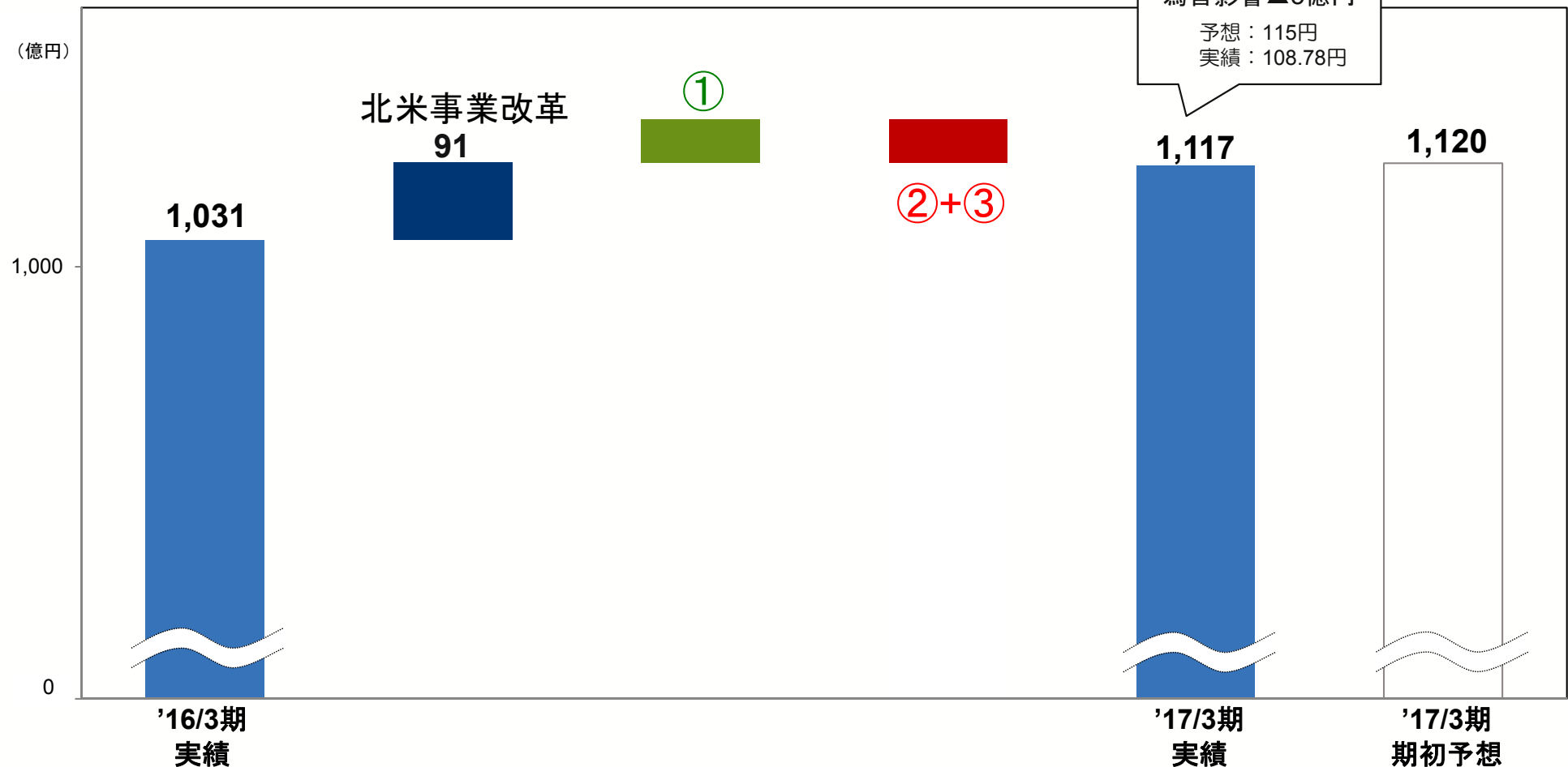
	受注高	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益*	年間配当(円)
'17/3期 実績	1,196 予想比: ▲64 前期比: +71	1,117 予想比: ▲3 前期比: +86	63 予想比: +1 前期比: +9	63 予想比: +2 前期比: +11	47 予想比: +7 前期比: +20	58 (5月決議予定)
'17/3期 予想	1,260	1,120	62	61	40	58
'16/3期 実績	1,125	1,031	54	51	28	58

増減要因の相殺により、売上高は概ね予想どおり着地

【増収要因】 ① '16/3期末までの受注分について工事計画を見直した結果、'17/3期進行分は増加

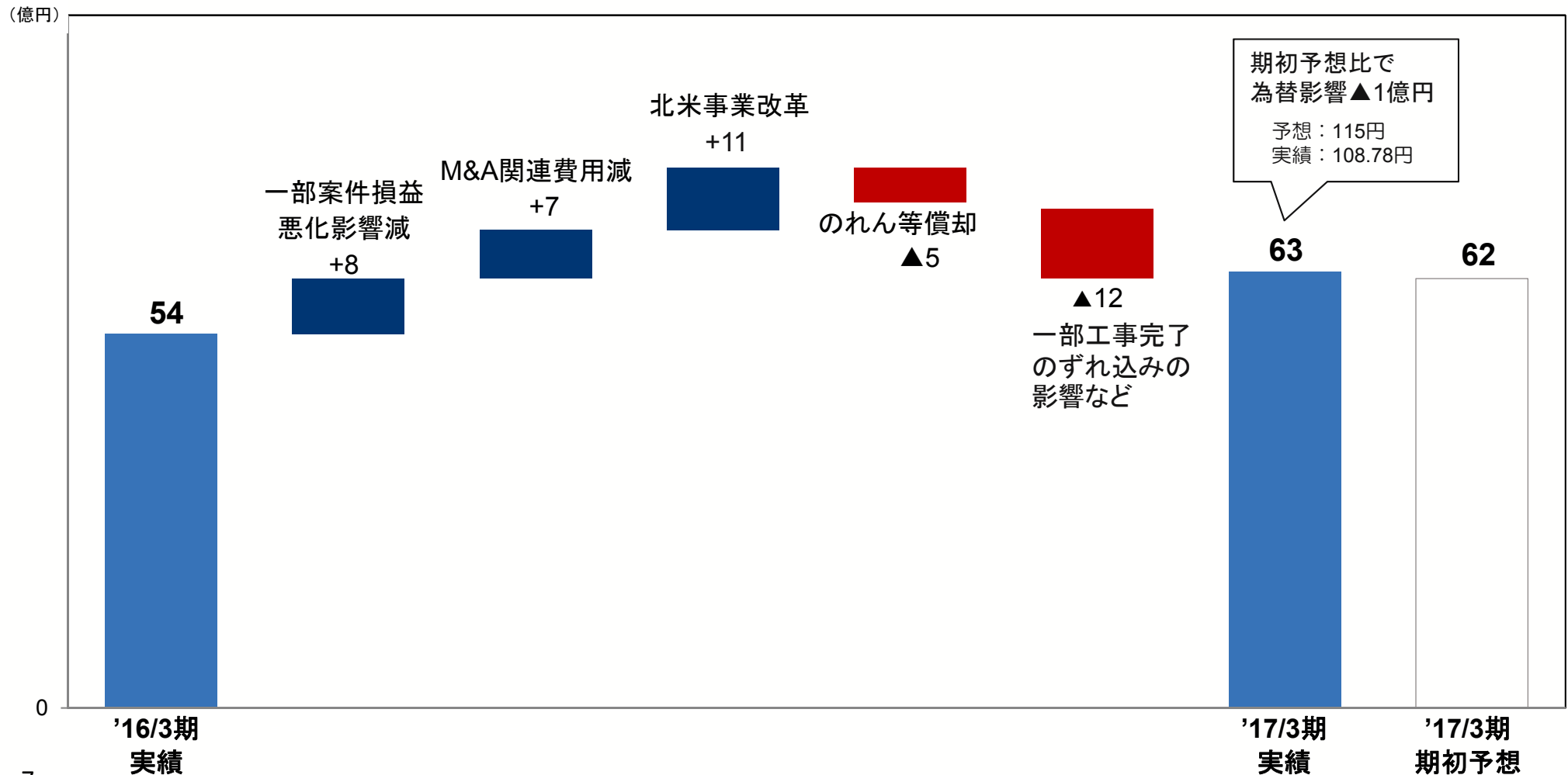
【減収要因】 ② 土木・建築工事の遅れなどにより、一部工事の完了が'18/3期以降にずれ込み

③ '17/3期受注は下期偏重となり、'17/3期進行分が減少



'17/3期 営業利益実績

期初予想に織り込んだリスク要因は生じなかったものの、一部工事の完了が来期以降にずれ込んだ影響などにより、概ね予想どおりに着地



10億円規模の大型工事を14件受注（うち6件4Q）

- * 名古屋市上下水道局「堀留水処理センター水処理設備工事（その6）」（愛知県）〈4Q〉
- * 新潟市水道局「阿賀野川浄水場電気設備更新工事」（新潟県）〈4Q〉
- * 大阪市水道局「柴島浄水場下系オゾン設備機能増強工事」（大阪府）〈4Q〉
- * 東京都水道局「江北給水所（仮称）外1か所電気設備等設置工事」〈4Q〉
- * 川崎市上下水道局「入江崎水処理センター改築電気その9工事」（神奈川県）〈4Q〉
- * 小平市・東大和市・武蔵村山市「（仮称）3市共同資源物処理施設整備工事」*（東京都）〈4Q〉
- * 東京都下水道局「吾孺第二ポンプ所 沈砂池機械設備再構築工事」〈3Q〉
- * 名古屋市上下水道局「宝神水処理センター水処理設備工事（その3）」（愛知県）〈3Q〉
- * 日本下水道事業団「北部流域処理場汚泥処理設備工事その2」（埼玉県）〈3Q〉
- * 東京都下水道局「南部汚泥処理プラント脱水焼却電気設備再構築工事」〈2Q〉
- * 沖縄県企業局「北谷浄水場2系ろ過池機械設備工事（その1）」〈2Q〉
- * 高山市「宮川終末処理場汚泥焼却炉長寿命化工事」（岐阜県）〈2Q〉
- * 京都市上下水道局 伏見水環境保全センター高速ろ過機械設備工事（京都府）〈2Q〉
- * 東京都下水道局「森ヶ崎水再生センター（西）高速ろ過設備工事」〈1Q〉

*SS事業 ごみ処理・リサイクル事業

受注高10億円規模の大型工事を9件完了（うち4件4Q）

- * 東京都下水道局「南多摩水再生センター汚泥焼却設備整備その3工事」<4Q>
- * 名古屋市上下水道局「露橋水処理センター水処理設備工事」（愛知県）<4Q>
- * 三重県企業庁「高野浄水場 中央監視制御設備改良工事」<4Q>
- * 神奈川県内広域水道企業団「相模原浄水場非常用発電設備更新工事」<4Q>
- * 大阪市建設局「大野下水処理場沈殿池設備工事」（大阪府）<3Q>
- * 東京都下水道局「新河岸水再生センター汚泥焼却設備3号炉撤去工事」<3Q>
- * 東京都水道局「金町浄水場第1高度浄水施設電気設備改良工事」<3Q>
- * 東京都下水道局「南部汚泥処理プラント発電設備その2工事」<2Q>
- * 埼玉県下水道局「南部流域処理場3号汚泥焼却炉機械設備改築工事」<2Q>

欧米に加え、アジア地域でも新規案件を受注

- * ノルウェーInrigo社より、カメルーン新設2浄水場向けセラミック膜ろ過装置受注〈4Q〉
- * ミャンマー向け 車載式セラミック膜ろ過装置 計10台受注〈4Q〉
- * 米国 テキサス州 Wylie浄水場向けオゾン増設受注〈4Q〉
- * ベトナム ホイアン市 下水処理施設建設工事受注〈3Q〉
- * カナダ オンタリオ州 Woodward Avenue下水処理場向けクロスメディアフィルタ受注〈1Q〉
- * 米国 テキサス州 South Austin Regional下水処理場向けクロスメディアフィルタ受注〈1Q〉

- * AAS社*の損益計算書を連結〈'16/4~〉、MUSA*北米事業をAAS社へ移管〈'16/5~〉

（参考）米国 モンタナ州 セラミック膜ろ過装置採用のButte浄水場完成〈'18/3期〉

* AAS社：Aqua-Aerobic Systems, Inc.（本社：米国イリノイ州、'16/1 子会社化）

* MUSA：METAWATER USA, Inc.（本社：米国ニュージャージー州、当社子会社）

計70ヶ所以上で運営、運転・維持管理

'17/3期は長期契約、包括契約、新規契約を8件受託、新規5件が業務開始

受託

- * 茅ヶ崎市「粗大ごみ処理施設運転管理業務委託」*（神奈川県）〈4Q〉
- * 京都市「石田水処理施設運転管理委託」*（京都府）〈4Q〉
- * 下呂市「下呂市水道施設運転管理業務」、「同 その2」（岐阜県）〈4Q〉
- * 静岡市「中島浄化センター及び中島雨水ポンプ場外 運転管理業務」（静岡県）〈4Q〉
- * 長岡市「妙見浄水場ほか4浄水場運転管理業務」*（新潟県）〈3Q〉
- * 川崎市「加瀬水処理センター・処理区ポンプ場点検業務（長期契約）」*（神奈川県）〈1Q〉
- * 宇都宮市「清原水処理センターほか2か所包括的維持管理業務（包括委託）」*（栃木県）〈1Q〉

*受託および業務開始

'17/3期の成果－SS事業（PPP事業）

現在までに上下水道分野のPPP案件57件*中27件に参画、'17/3期は6件中4件に参画

*PPP案件数: 当社調べ

受注

- * 名古屋市上下水道局「空見スラッジリサイクルセンター下水汚泥固形燃料化事業」(愛知県)〈4Q〉
- * 北九州市「排水管理システム整備維持管理事業」(福岡県)〈3Q〉
- * 見附市「青木浄水場更新事業」(新潟県)〈2Q〉ほか

工事完了

- * 静岡市「中島浄化センター汚泥燃料化施設建設工事」*(静岡県)〈4Q〉
- * 大阪市「平野下水処理場脱水分離液処理施設整備事業」(大阪府)〈4Q〉
- * 愛知県「豊川浄化センター汚泥処理施設等整備・運営事業」*〈3Q〉

*工事完了および業務開始

業務開始

- * 荒尾市「水道事業等包括委託」業務開始(熊本県)〈1Q〉
- * 株式会社北九州ウォーターサービス業務開始(福岡県)〈1Q〉

省エネ・創エネ、環境配慮、ゲリラ豪雨対策など、最先端技術の開発に注力

- * 平成26年度 B-DASH*「無曝気循環式水処理技術実証事業」ガイドライン化により実用段階へ
- * 平成27年度 B-DASH*「都市域における局所的集中豪雨に対する雨水管理技術実証事業」実証開始
- * 紫外線LED(UV-LED)を用いた浄水向け紫外線処理装置 など

- * ISO55001(アセットマネジメント)の認証取得
- * 愛知県下水道科学館のネーミングライツ契約を締結

* B-DASH(Breakthrough by Dynamic Approach in Sewage High Technology Project) : 国土交通省が実施する下水道革新的技術実証事業

- I 2017年3月期ハイライト
- II 2018年3月期経営方針
- III 2017年3月期決算概要

'18/3期 業績・配当予想

'17/3期末受注残高および'18/3期受注高のうち、'18/3期工事進行分の各々の計画を精査し、必要があれば2Q決算発表時に公表

* 受注高

長期ビジョン(P18参照)の実現に向けて、2期連続で過去最高更新を目指す

* 損益

PPP、O&Mなどストックビジネスの増加、欧米を中心とした海外事業の強化により増収増益を目指す

ただし、当期純利益は、米国子会社の税効果の影響がなくなるため、減益を予想

* 配当

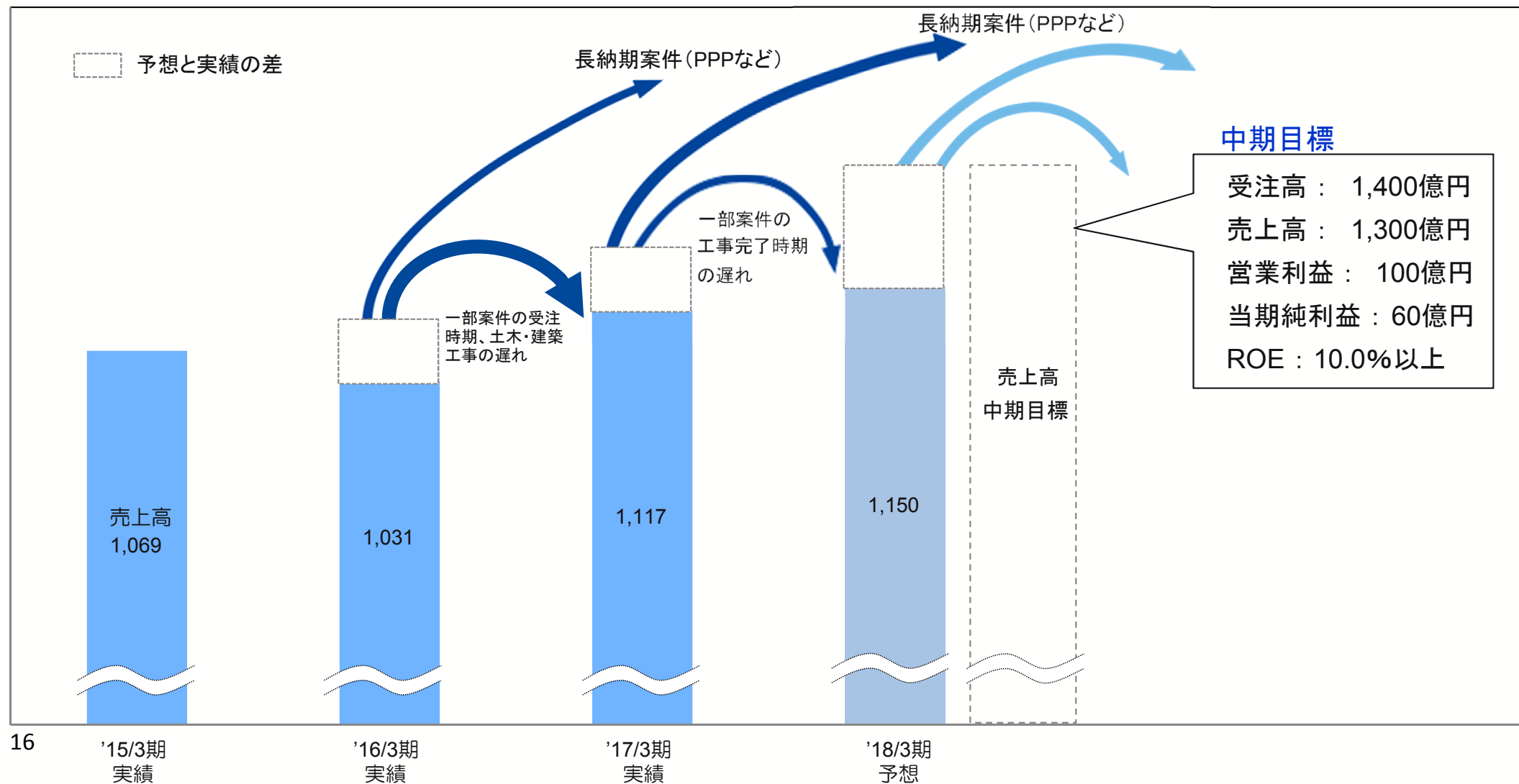
安定配当を継続予定

(億円)

	受注高	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益*	年間配当(円)
'18/3期 予想	1,250 前期比:+54 +4.9%	1,150 前期比:+33 +3.0%	65 前期比:+2 +2.7%	64 前期比:+1 +2.4%	42 前期比:▲5 ▲11.4%	58
'17/3期 実績	1,196	1,117	63	63	47	58 (5月決議予定)

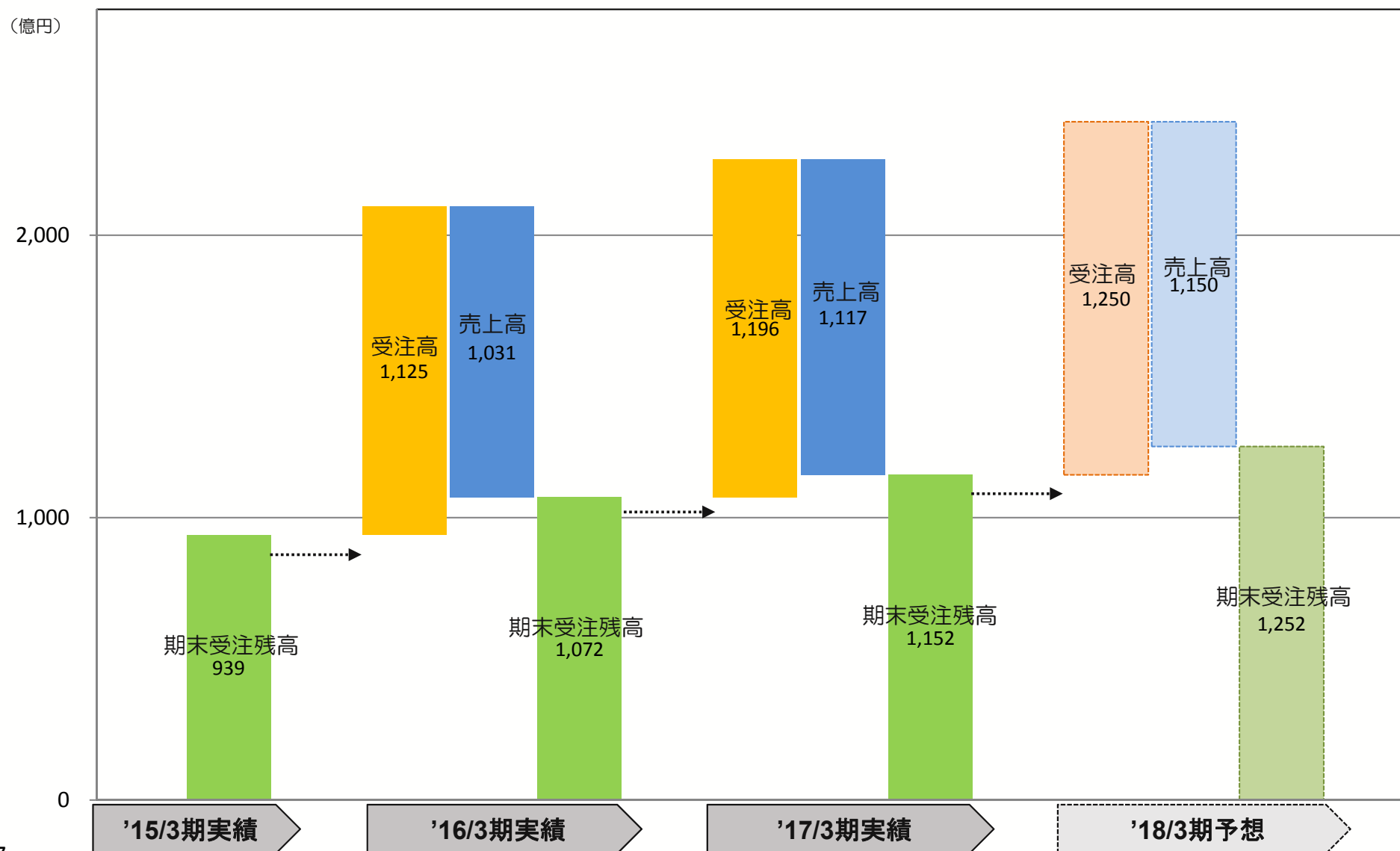
中期経営計画の進捗<イメージ>

PPPなど長納期案件の構成比増加、一部案件の受注時期・工事完了時期遅れなどにより、売上・利益は中期目標に届かない見通し
受注は順調に積み上がっており、将来の成長に向けた基盤固めは進展



受注残高、受注高、売上高の推移

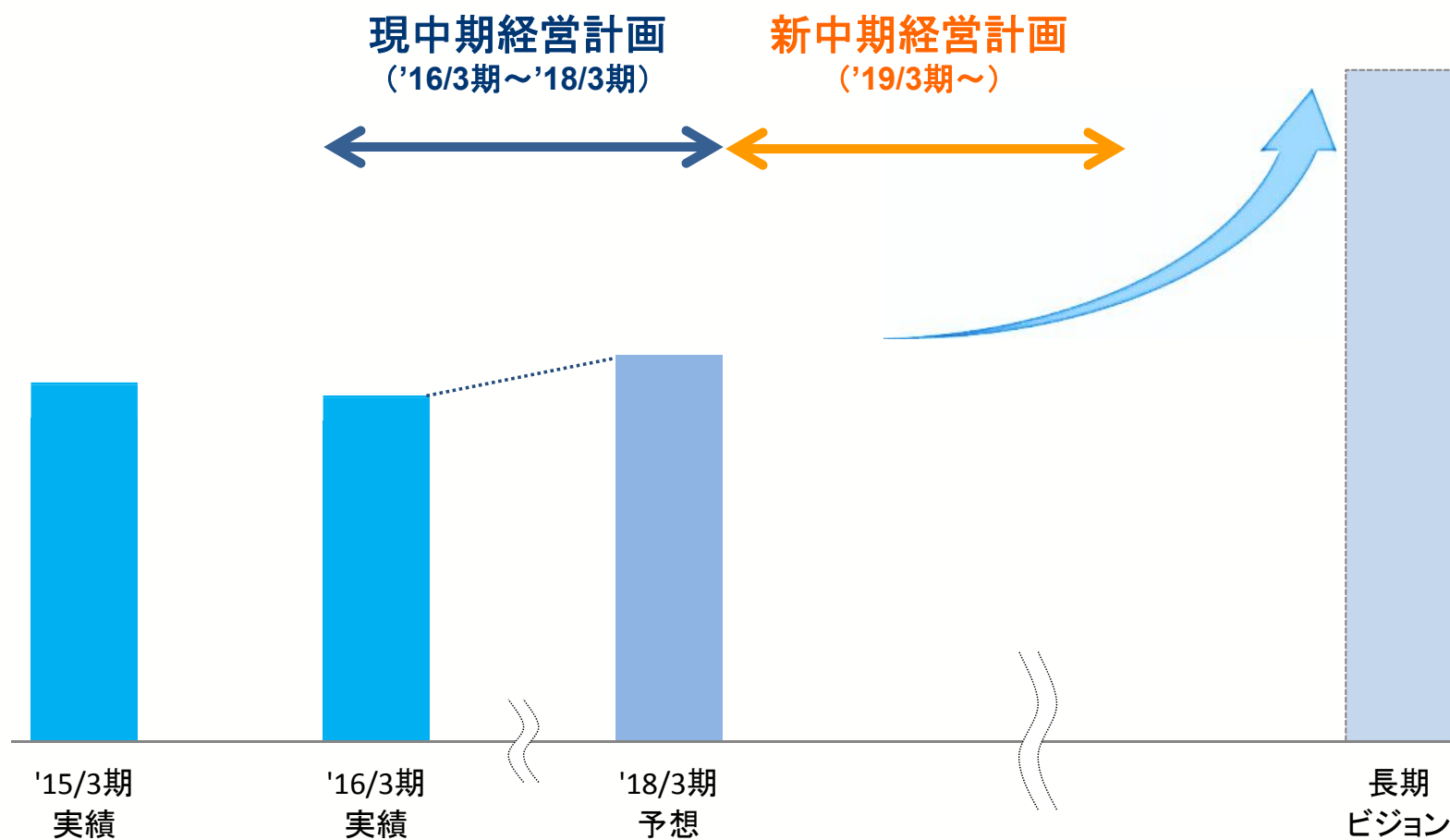
「期末受注残高」、「前期末受注残高＋当期受注高」ともに伸長傾向



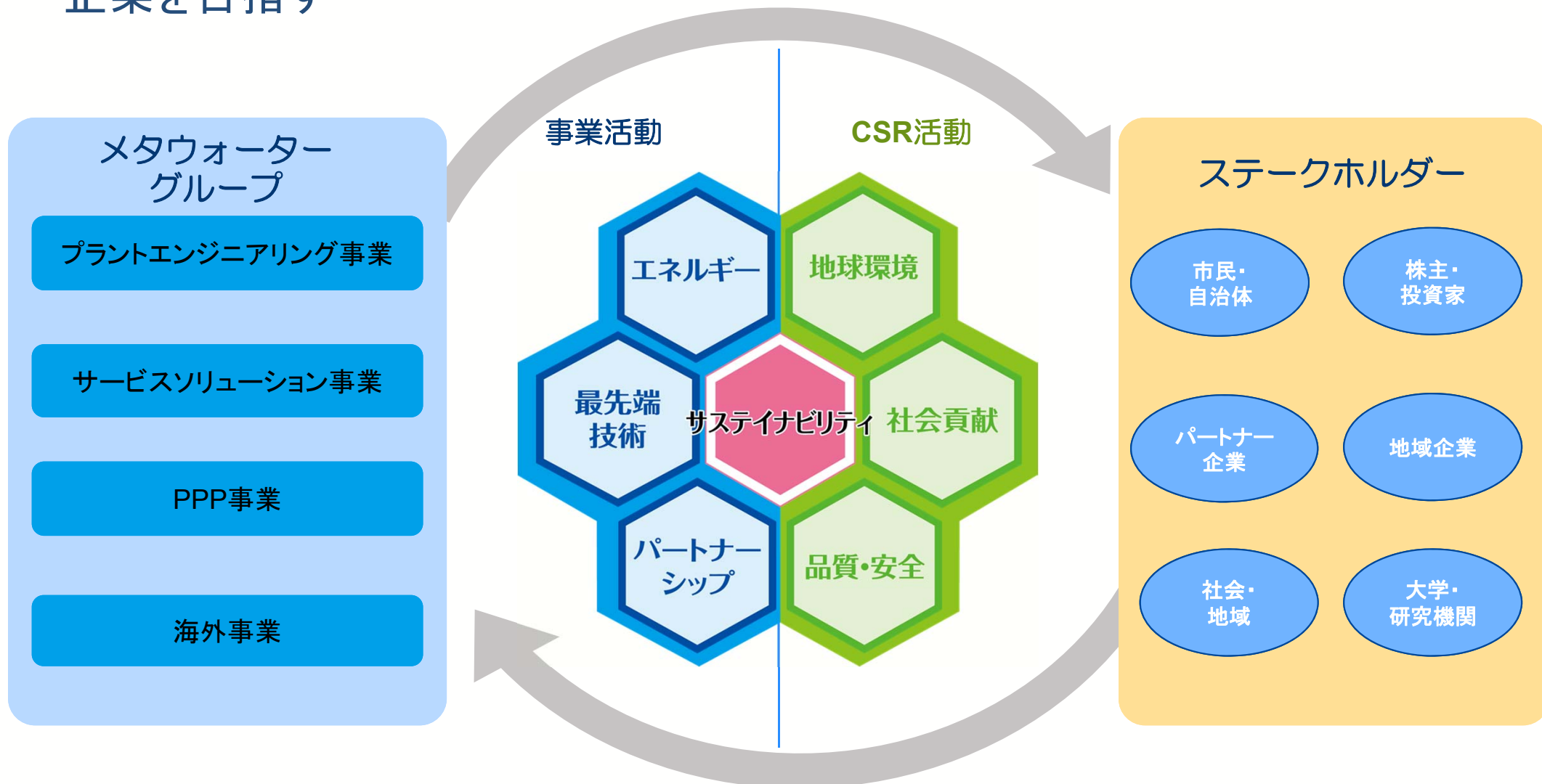
受注残高、受注高は当該年度の決算発表時点での数値

長期ビジョンの実現に向けて

PPPなど長納期案件が売上に貢献する時期を見極め、
来年度春を目途に新中期経営計画を策定・公表予定

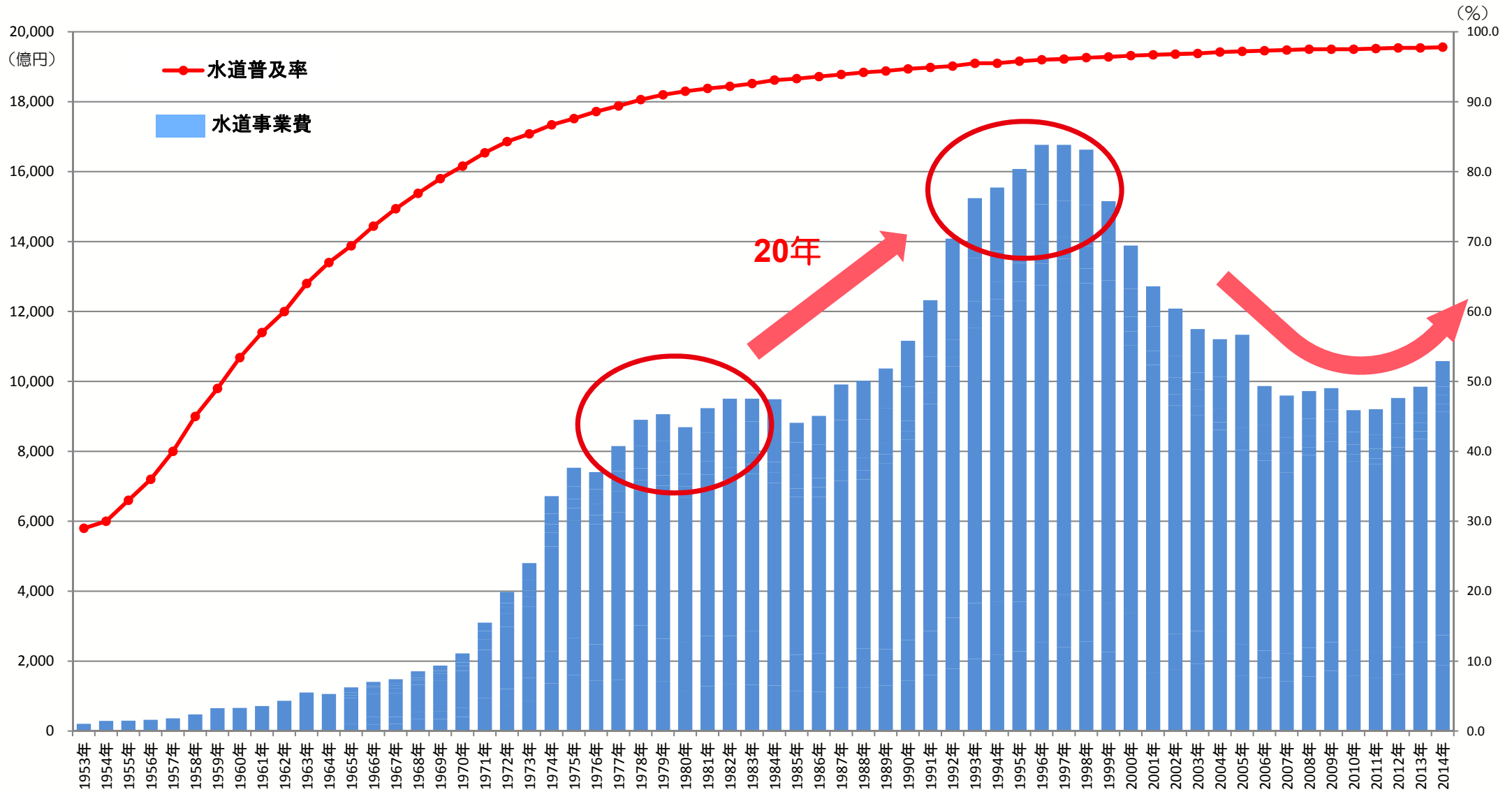


“お客様・現場”第一主義を実践し、ステークホルダーの皆様に信頼される企業を目指す



市場動向 水道事業費の推移

水道事業費は、2010年頃を底に増加傾向へ



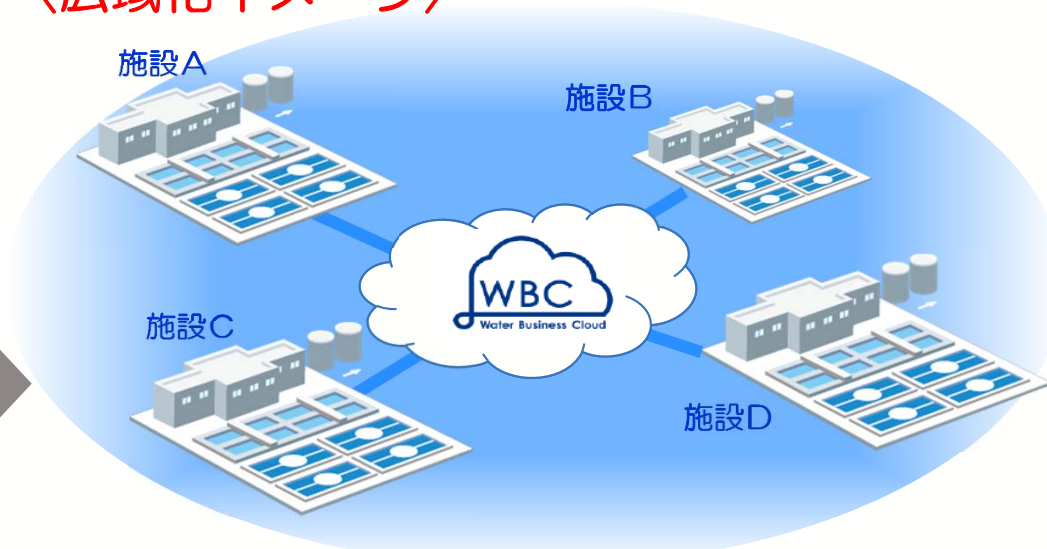
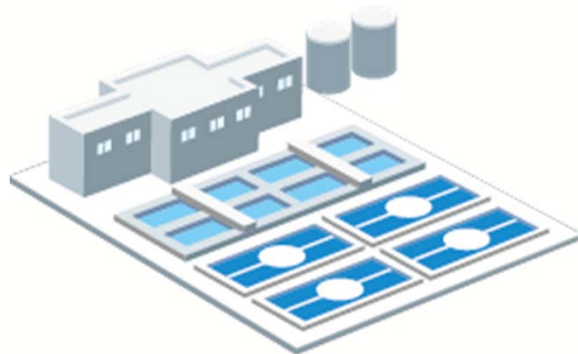
上下水道事業の包括化、広域化のニーズに応じて事業範囲を拡大

〈広域化イメージ〉

〈包括化イメージ〉 特徴:性能発注

〈従来〉

特徴:仕様発注



EPC

1~3年

機械設備

電気設備

O&M

1年更新

運転

維持管理

DBO

DB
3~6年

設計

土木

建築

機械設備

電気設備

O&M
15~20年

運転

維持管理

運営

PFI

資金調達

コンセッションなど

DB
3~6年

設計

土木

建築

機械設備

電気設備

O&M
15~20年

運転

維持管理

運営

+

事業者業務

事業計画

資産管理

料金徴収

強みを活かし、参画件数は3件/年ペースへ

【強み】

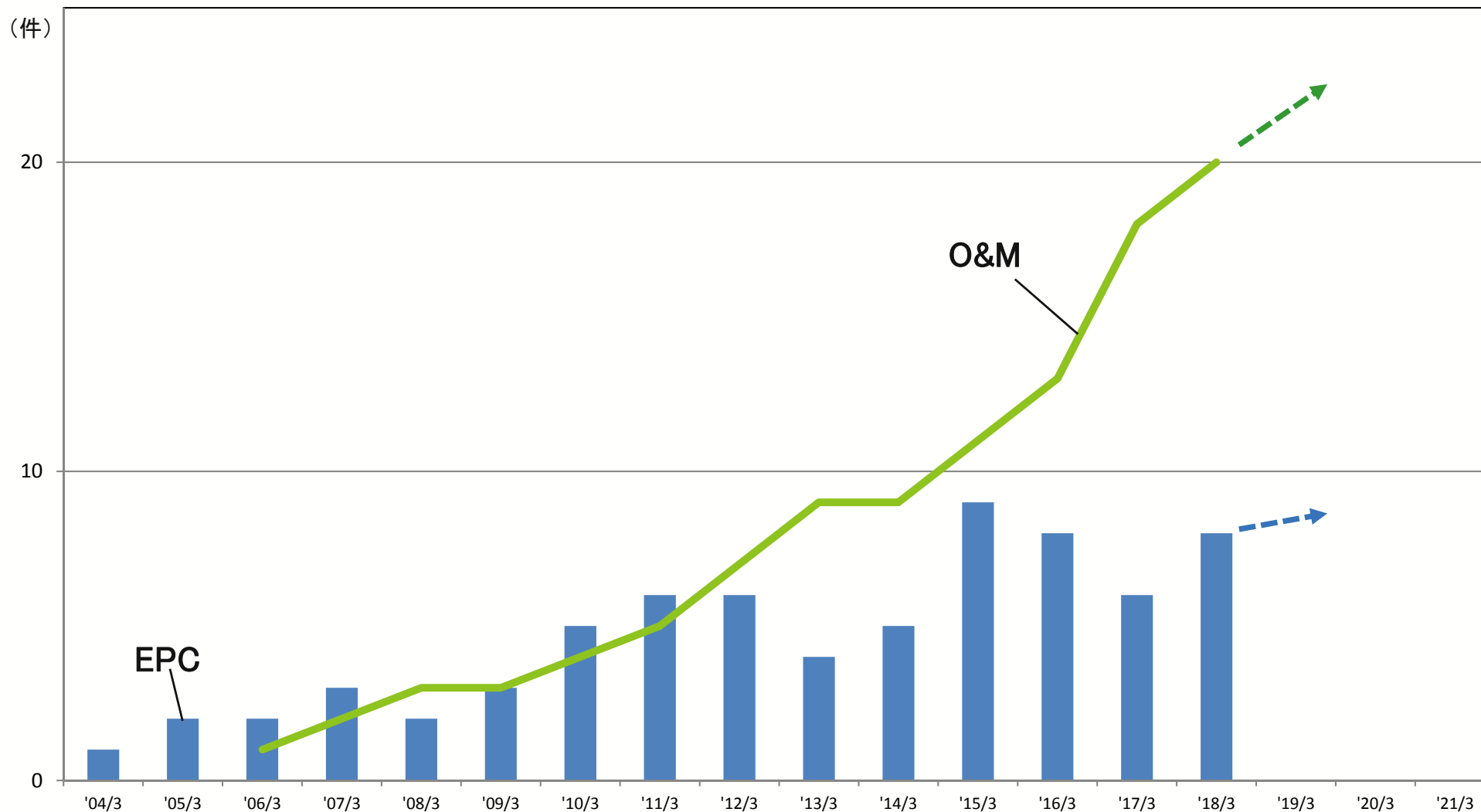
- ・「機械技術」+「電気技術」+「ICT」+「運転・維持管理ノウハウ」
- ・上下水道分野PPP案件 57件中27件の参画実績
- ・土木・建築会社、地域企業とのパートナーシップ
- ・東証一部上場企業としてのCSR、資金調達力

参画件数の推移

	'04/3	'05/3	'06/3	'07/3	'08/3	'09/3	'10/3	'11/3	'12/3	'13/3	'14/3	'15/3	'16/3	'17/3	
参画件数	1	2	1	1	0	3	3	2	1	1	4	1	4	4	
平均件数	1.0					2.0					3.3				

ストックビジネスであるO&Mの売上貢献件数が増加

各期の売上貢献件数



'18/3期 経営方針－成長分野「海外事業」

北米：AAS社を基盤として事業展開

欧州：関係会社・戦略パートナー3社を軸とした事業展開

欧州



メタウォーター

米国事業基盤提供

技術・製品開発

経営リソース提供

北米



AQUA-AEROBIC SYSTEMS, INC.
A Metawater Company

MECANA社（AAS社子会社）

RWB社*（資本業務提携パートナー）

PWNT社*（パートナー企業：オランダ水道公社の子会社）

* RWB社：Rood Wit Blauw Holding B.V.

* PWNT社：PWNT B.V.



EPC事業：差別化技術で更新需要に対応

O&M事業：ICTと維持管理ノウハウを活かしたストックビジネスの拡大

EPC

セラミック膜ろ過システム



オゾン処理システム



高速ろ過システム



監視制御設備



受変電設備



汚泥焼却炉



燃料電池



O&M



パートナーシップを活かした多様な研究開発

国土交通省 B-DASH

無曝気循環式水処理技術実証研究(平成26年度)

【実施者】

高知市、高知大学、日本下水道事業団、メタウォーター 共同研究体



都市域における局所的集中豪雨に対する雨水管理技術実証事業(平成27年度)

【実施者】

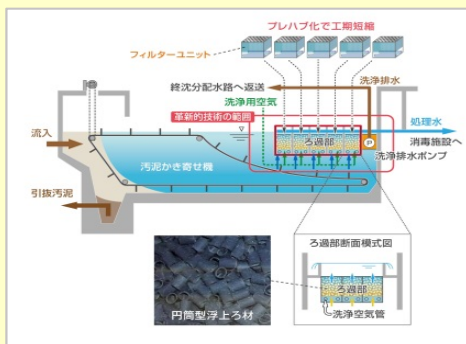
メタウォーター(株)、(株)新日本コンサルタント、古野電気(株)、江守商事(株)、(株)日水コン、神戸大学、福井市、富山市 共同研究体



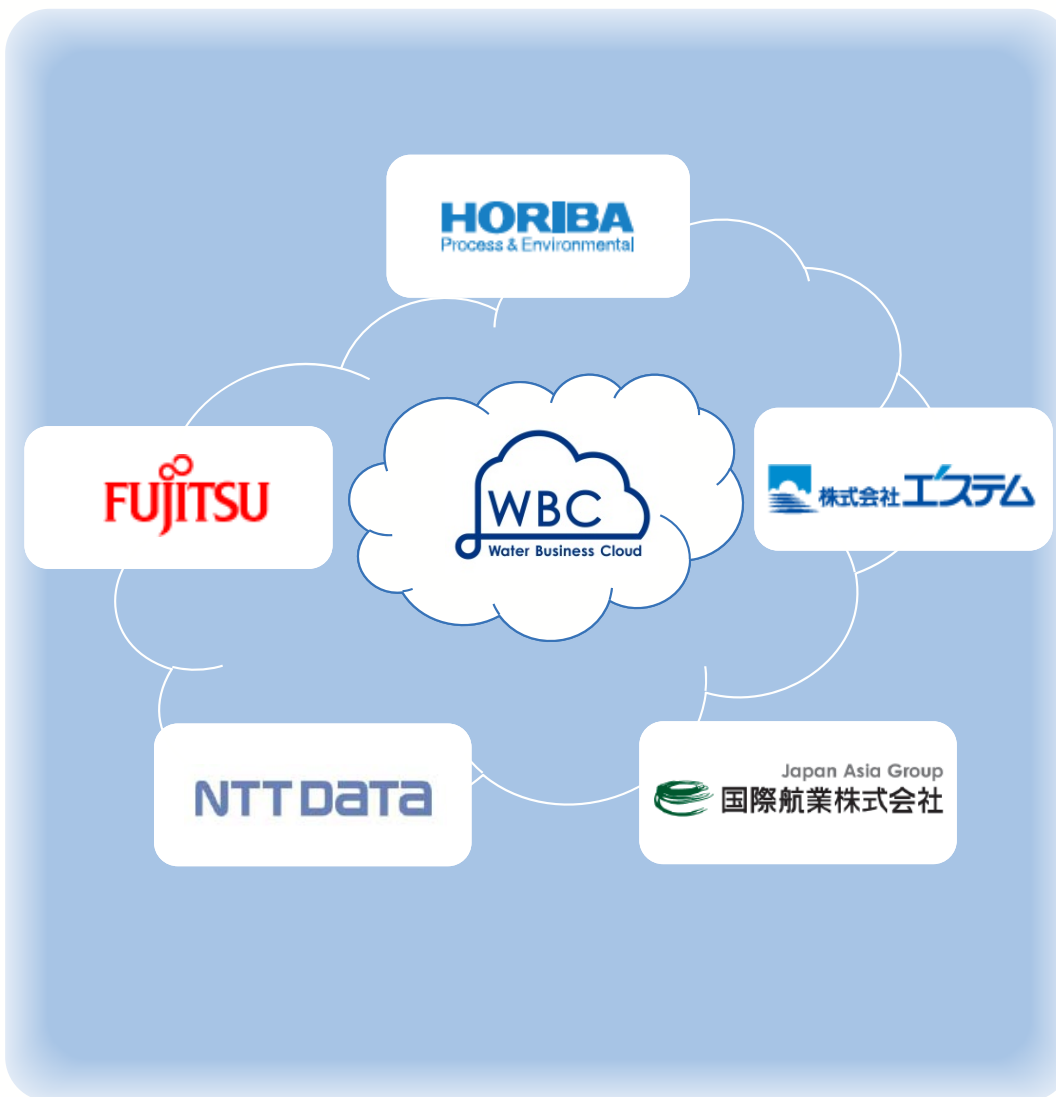
最終沈殿池の処理能力向上技術実証事業(平成29年度)

【実施者】

メタウォーター株式会社、日本下水道事業団、松本市 共同研究体



パートナーシップによる WBCでのオープンイノベーション



「働きやすい、やりがいある会社」を目指し、
働く環境を整備しつつ、生産性の向上を推進

従来からの取り組み

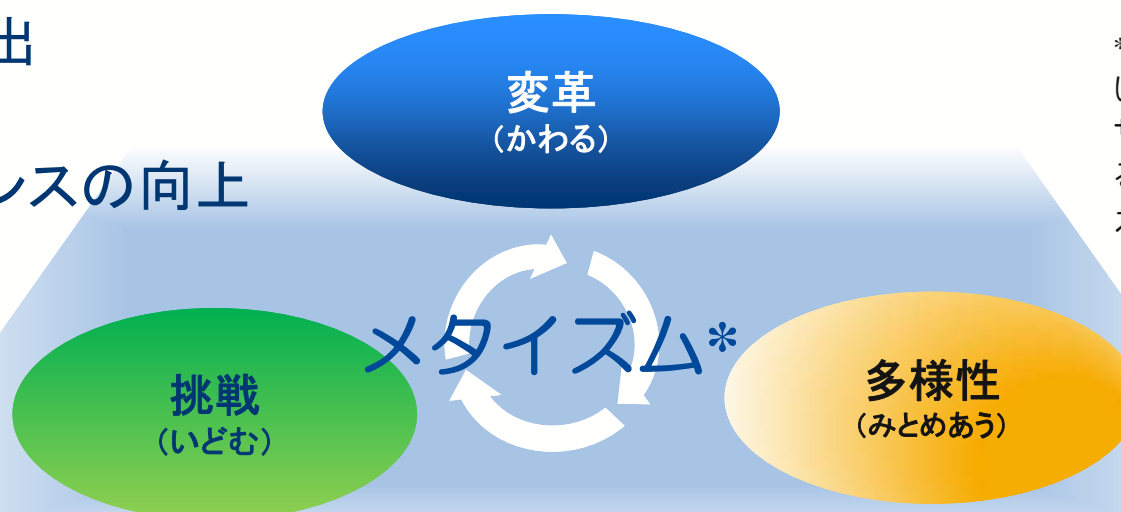
- ✓ ダイバーシティの推進
- ✓ ノンコアタイムフレックス制の導入
- ✓ 安全衛生委員会による職場巡視
- ✓ 業務のIT化推進

+

新たな取り組み

- ✓ サテライトオフィスの整備
- ✓ 在宅勤務制度の運用拡大
- ✓ 残業ゼロ化に向けた取り組み

- * 自己成長機会の創出
- * 健康増進
- * ワーク・ライフ・バランスの向上



*メタイズム：自ら変革を生み出していくチャレンジ精神のある“個”をサポートし、多様な“個”が協働するダイバーシティを進めるという考え方を示したもの

- I 2017年3月期ハイライト
- II 2018年3月期経営方針
- III 2017年3月期決算概要

Ⅲ 2017年3月期通期決算概要

- 1 連結損益計算書
- 2 セグメント情報
- 3 連結貸借対照表
- 4 連結キャッシュ・フローの状況

連結損益計算書('17/3期の業績)

(単位:億円)

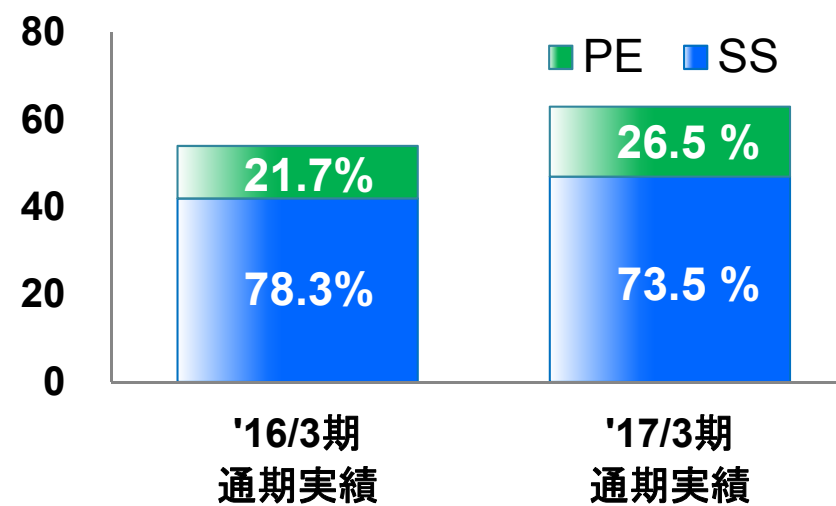
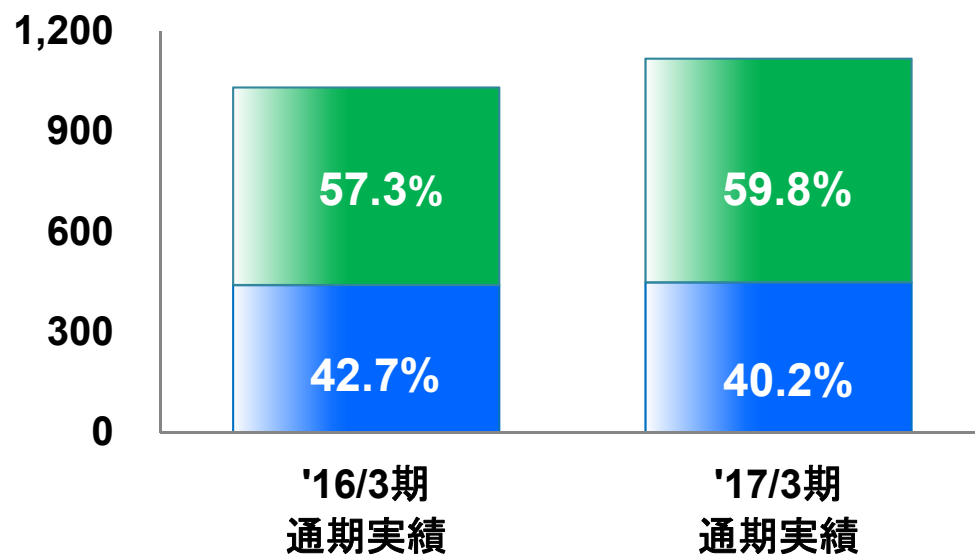
	'16/3期 通期実績	'17/3期 通期実績	増 減
売 上 高	1,031	1,117	+86
営 業 利 益	54	63	+9
(営 業 利 益 率)	5.2%	5.7%	+0.5%
経 常 利 益	51	63	+11
親会社株主に帰属する 当期純利益	28	47	+20

* 10百万円単位を四捨五入

(単位: 億円)

	売上高		
	'16/3期 通期実績	'17/3期 通期実績	増 減
PE	590	668	+78
SS	441	449	+8
合計	1,031	1,117	+86

	営業利益		
	'16/3期 通期実績	'17/3期 通期実績	増 減
PE	12	17	+5
SS	42	47	+4
合計	54	63	+9



連結貸借対照表

(単位:億円)

	'16/3期 期末実績	'17/3期 期末実績	増 減
現金・預金	209	242	+33
売上債権	708	679	▲29
棚卸資産	69	72	+4
繰延税金資産	14	16	+2
その他	31	26	▲5
流動資産計	1,031	1,036	+5
有形固定資産	32	31	▲2
無形固定資産	93	82	▲11
その他	52	62	+9
固定資産計	178	174	▲4
総資産計	1,209	1,210	+1

	'16/3期 期末実績	'17/3期 期末実績	増 減
買入債務	359	308	▲51
前受金	58	87	+29
短期借入金 ^{*1}	(8)12	(8)11	▲1
その他	80	80	—
流動負債計	509	485	▲24
長期借入金 ^{*2}	(134)160	(124)148	▲11
その他	59	54	▲5
固定負債計	218	202	▲17
負債計	727	687	▲40
純資産計	482	523	+41
負債・純資産合計	1,209	1,210	+1

*1 *2 : カッコ内の数値はPFI等プロジェクトファイナンス・ローンの金額

連結キャッシュ・フローの状況

(単位: 億円)

	'16/3期 通期実績	'17/3期 通期実績	増 減
現金・現金同等物の前期残高	296	200	▲96
営業キャッシュ・フロー	1	78	+77
投資キャッシュ・フロー	-110	-15	+95
フリー・キャッシュ・フロー	-109	62	+172
財務キャッシュ・フロー	9	-27	▲36
現金・現金同等物に係る 換算差額	4	-2	▲6
現金・現金同等物の期末残高	200	234	+34

'18/3期業績予想

(単位: 億円)

	'17/3期 通期実績	'18/3期 通期予想	増減
売上高	1,117	1,150	+33
営業利益	63	65	+2
(営業利益率)	5.7%	5.7%	—
経常利益	63	64	+1
親会社株主に帰属 する当期純利益	47	42	▲5
受注高	1,196	1,250	+54

ディスクロージャーポリシー

1. 基本方針

当社グループは、企業理念に基づき、社会とともに持続的な発展を遂げるため、すべてのステークホルダーの皆様の期待にお応えし、社会から信頼され、社会に貢献し続ける企業グループを目指します。この考え方に則り、当社グループは、ステークホルダーの皆様や社会に対して当社グループに係る企業情報を公正・公平かつ適時・適切に開示するとともに、ステークホルダーの皆様と積極的にコミュニケーションをはかることにより、当社グループに対する理解促進をはかり、透明性・信頼性の高い経営に努めます。

2. 情報開示の基準

会社法、金融商品取引法等の諸法令および金融商品取引所の定める規則等により開示が求められる企業情報について、それぞれの法令や規則等に則り、情報開示を行います。また、法令や規則等に該当しない企業情報であっても、ステークホルダーの皆様により有用であると判断される情報や社会的に開示が必要と判断される情報について、可能な限り積極的に情報開示を行います。

3. 情報開示の方法

上記の法令や規則等により開示が求められる企業情報については、それぞれの法令や規則等で定められた方法により情報開示を行うとともに、当社ホームページに掲載します。上記の法令や規則等に該当しない企業情報については、その重要性や緊急性を考慮し、報道機関や当社ホームページ等を通じて情報開示を行います。

4. 情報開示後のコミュニケーション

開示した情報に関して、会見、説明会、取材、問い合わせへの回答等を通じ、ステークホルダーの皆様と積極的にコミュニケーションをはかります。また、コミュニケーションを通じてステークホルダーの皆様からいただいたご意見等は、当社グループ内で共有し、今後の参考とさせていただきます。

5. 沈黙期間

決算情報の漏洩を防ぎ、公平性を確保するため、決算(四半期決算を含む)期末日の翌日から決算発表までを沈黙期間とします。沈黙期間中は、業績予想の修正に関する情報開示を行った場合を除き、決算・業績見通しに関する会見、説明会、取材、問い合わせへの回答等は差し控えます。

6. 将来の見通しについて

当社グループが開示する業績予想、戦略、目標等のうち将来の見通しに関する記述は、当社グループがその時点で入手している情報および合理的であると判断される一定の前提を根拠としており、実際の業績等は様々な要因により異なる結果となる可能性があります。

7. 社内体制の整備

ディスクロージャーポリシーを遵守し、適切な情報開示およびステークホルダーの皆様とのコミュニケーションがはかれるよう、社内体制を構築するとともに社内規程を整備します。



【本資料に関するお問い合わせ先】

メタウォーター株式会社 CSR推進室 広報IR部

Tel: 03-6853-7317 Fax: 03-6853-8709 E-mail: pr@metawater.co.jp